

## 審査委員会による小論文審査の総評

### 1. 初めに

2018 年度の保険士認定者は 14 名で、32 歳から 72 歳までの全員が仲立人業務従事者でした。多忙な業務の合間に小論文の執筆に挑戦して頂いたことに敬意を表します。

申請ガイドで案内した観点から採点評価した結果に、小論文から読み取れる執筆者の業務や業界への前向きな想いや使命感や意欲を加味した総合的な評価により認定の適否を判断しました。

但し、小論文としては、内容的にも形式的にも、あるいは文章記述や展開においても、残念ながら指摘しておいた方がよいであろうと思われることがいくつかありました。今回認定を受けた方々にとっても、これから保険士認定を受けようとする方々にとっても、今後の自己研鑽の指針の一つになればと願ひ、それらを審査総評としてお伝えすることとします。

### 2. 小論文審査総評

今回提出された小論文に関して、指摘しておいた方がよいであろうと思われた点は、以下の通りです。

第一は、教科書や関連書籍で学習したことを纏めただけで、自らの考えがあまり示されていないことです。傾向としてレポートとしてはよく纏まっているが、自らの考察に乏しく読者に伝えるべきものがなく、小論文としては価値が低いと言わざるを得ません。

第二は、論考から結論への展開が曖昧であることです。9 月 4 日に小論文の書き方について補足した際に、自らの「問題意識 (= 問掛けあるいは仮説)」を述べて、それを客観的なデータや経験から得た事実などを基に考えて、最後に「答えまたは仮説の検証結果」を読者に伝えるのが小論文であると案内をしました。しかし乍らそうした展開で自らの考えを述べた小論文は残念ながらほとんどありませんでした。

第三は、文章展開が複雑で極めて読みにくいもの、結論が何なのか曖昧なものも散見されたことです。考えを人に伝えることが大切なコンサルティング業務や指導的な立場の業務を携わっている方々にしては残念でした。

第四には、問題意識の前提となる現状認識が誤っているもの (年々の元受保険料収入の総

額が増加しないことを持って保険の普及率が低いと論じているのはその典型)、データや資料の出所が示されていないもの、データや資料を提示しているだけでその内容についての自らの考えが示されていないなど、小論文の大事な要件を満たしていないことも散見されました。

第五は、字数不足です。小論文の本文字数を 4000 字以内としてあり太宗がこの字数枠をフルに使用して論考を試みていましたが、1000 字近く枠を余らせたもの、中には、2500 字程度しか書かれていないものもありました。知的文章は、「簡潔、明晰、論理的」であることが原則であり短いことは決して悪いことではありませんが、自分の考えをしっかりと論じ伝えきる」ことが重要です。簡潔でよく纏まっているようでも、やはり論じ足りていないと思われました。扱ったテーマが斬新で独自性が看られる場合などは字数不足のマイナス評価を補うことが可能でしたが、そうでない場合の評価は厳しいものとならざるをえませんでした。許された時間や字数を有効に活用しようとする姿勢や意欲は、専門職業人としての基本的な資質ではないかと考えます。

#### 4. 最後に

以上、かなり辛口の総評となりましたが、参考事項として末尾に記してある諸点も併せて、今後の職業上の意見論述や小論文・論文の寄稿の際に参考にいただければ幸いです。

今回認定を受けられた方々は慢心することのないように、認定されなかった方々は落胆することなく再挑戦して頂くように願っています。皆さん方が更なる自己研鑽に励み、論考記述の文章力の錬成にも努めて、真に「保険士」にふさわしい論客を目指しつつ保険仲立人の社会的評価を高めていくことに一層邁進していただくこと希求しております。

2019 年 2 月      2018 年度保険士認定審査委員会

米山 高生

吉田 桂公

平賀 暁

山口 淳

宮武 祥夫

## 【参考事項】

小論文審査の過程で用語や言葉の使い方に関して審査委員会で意見が出された点を以下に挙げておきます。その使い方に関しては今一度留意されることをお勧めします。

- ・「啓蒙する」という言葉は、上から目線であり「顧客を啓蒙する」というような使い方は好ましくないのではないのでしょうか。「啓発する」のほうは好感が持てます。
- ・リスクの「転嫁」なのか「移転」なのか、使われる文脈や立場によって意味が異なりますが言葉のニュアンスや概念をよく整理した上で使ったほうがよいでしょう。
- ・「リスクの保険化」という語句はリスクと保険を研究している専門家にとっては理解しがたいものです。営業トークとして使われるのかもしれませんが、概念としてよく整理されて使われることを推奨します。
- ・「結語」という言葉を使っている小論文がありました。一般的な言葉を使うほうがいいのではないのでしょうか。理工系の論文で稀に見られる言葉ではありますが、社会・人文系の論文ではほとんど使われていません。
- ・研究「成果」の語用ですが、使用されていた小論文の内容からみると研究「結果」（＝研究により判明した事実）が適切と思われます。研究成果はその研究を評価する者が使うもので研究者自らが成果を論ずることは好感されないのではないのでしょうか。
- ・論文の形式として一文一文を段落としているのは読みやすくすることを考えたのかもしれませんが、小論文といった場合はそうした形式はかえって不評です。
- ・グラフやデータには出典の明記が必須です。
- ・結論を先に述べて、それに沿って論点を整理していく文章展開はビジネス文書では一般的かもしれないが小論文ではあまりみません。小論文では、序論（＝問題提起）⇒本論⇒結論（＝提起した問題に対する答え）という展開が一般的です。